

え(四〇)藤原すゑの(三五)小瀧高橋よし(三〇)等通洞驛發上京す。労働者の見送り盛にして、一種の劇的氣分を驛頭に漂はせたり。

同日午後小瀧に於て演説會開催、麻生棚橋氏等是に臨みたるが、此日注目すべき一事件は、棚橋氏を蔭の大將として一隊の労働者は、小瀧の坑口に集まり、二の方の入坑者坑口を出づるとき喊聲を擧げて之を迎へ三の方の入坑者に大なる恐威をあたへたることにて、此一舉に依り、歩調揃はざりし小瀧は、此日三の方より殆ど罷業状態に陥りたり。

▽攪亂的檄文の配付

十六日夜次の如き印刷物を闇に紛れて配付せるものあり。配布を了らざる中に取押へられ印刷物の大部分は沒收されたるが、こは足尾に入り込める社會主義者が大破壊を行はしめんがための煽動手段なり(報告末章参照)煽動者の檄及組合の之に對抗するための檄左の如し。

運 動 議 提 出
運 動 方 針
緊 急 動 議 提 出
直 接 行 動 採 決

明 日 期 を 示 す
原 文 の ま じ め

足尾の労働者諸君に告ぐ (原文のまゝ)

血の最後の一滴までもしほり抜いて、それで用がなくなつたら労働者の千や二千、タバにして渡良瀬川に流してしまへ、これが資本家古河のかけ引きのない魂膽である。

資本家のか様な主義を正しいとして、その一切の権力、兵力をもつて之を守らんとするのが現在の資本主義的國家だ。

諸君は今や人間として自覺した。正當の権利として生活の安易、自由を要求する。そしてその爲めに是非とも打破らなければならぬのが、この資本家本位の國家制度だ。

諸君はもう貨銀のれ上げだとか、時間の短縮だとかそんなゴマカシ文句にだまされておてはならぬ。貨銀が少し上つたかと思ふと同時に物價が上つてゐる。物價が下落したときは貨銀が下落したときだ。労働者の生活がいつもギリ／＼で、いつ首になるかわからぬと云ふ恐怖に充ちて居ると云ふことは、資本主義制度の續く間は當然のことである。

労働組合運動者は、なぜそんな惡制度と妥協するのだらう。曰く彼等は俺達の指導者でもなく味方でもなく、彼等の心底をたへて見れば、自分一箇の利益であり、名譽である。彼等の學士と云ふ肩書や、にはか仕込の労働服や、またにえ切らぬ演説は商賈道具にすぎないのだ。

一昨年の同盟罷業で諸君は苦い験しに逢つた今度のやつも同じことだよ。吾一層出来が悪いと云ふ違ひだけはある。何と云へば今は非常な不景氣で、銅も安いし、古河では休山など一向恐れはせぬ。聞けば「カツカ」には二三十人の坑夫があれば充分だ云ふ。「カツカ」をへ持つて居れば古河は充分やつて行ける云ふ。そんなあり様のところへ持つて来て、たゞ正々堂々とばかりで、手を組んでじつさとしてゐてどうするのだ。その結果は明かなものである。即ち諸君の腹が乾し上る頃、例のゴマ化し相場でもとのサヤ